

## ご 注 意

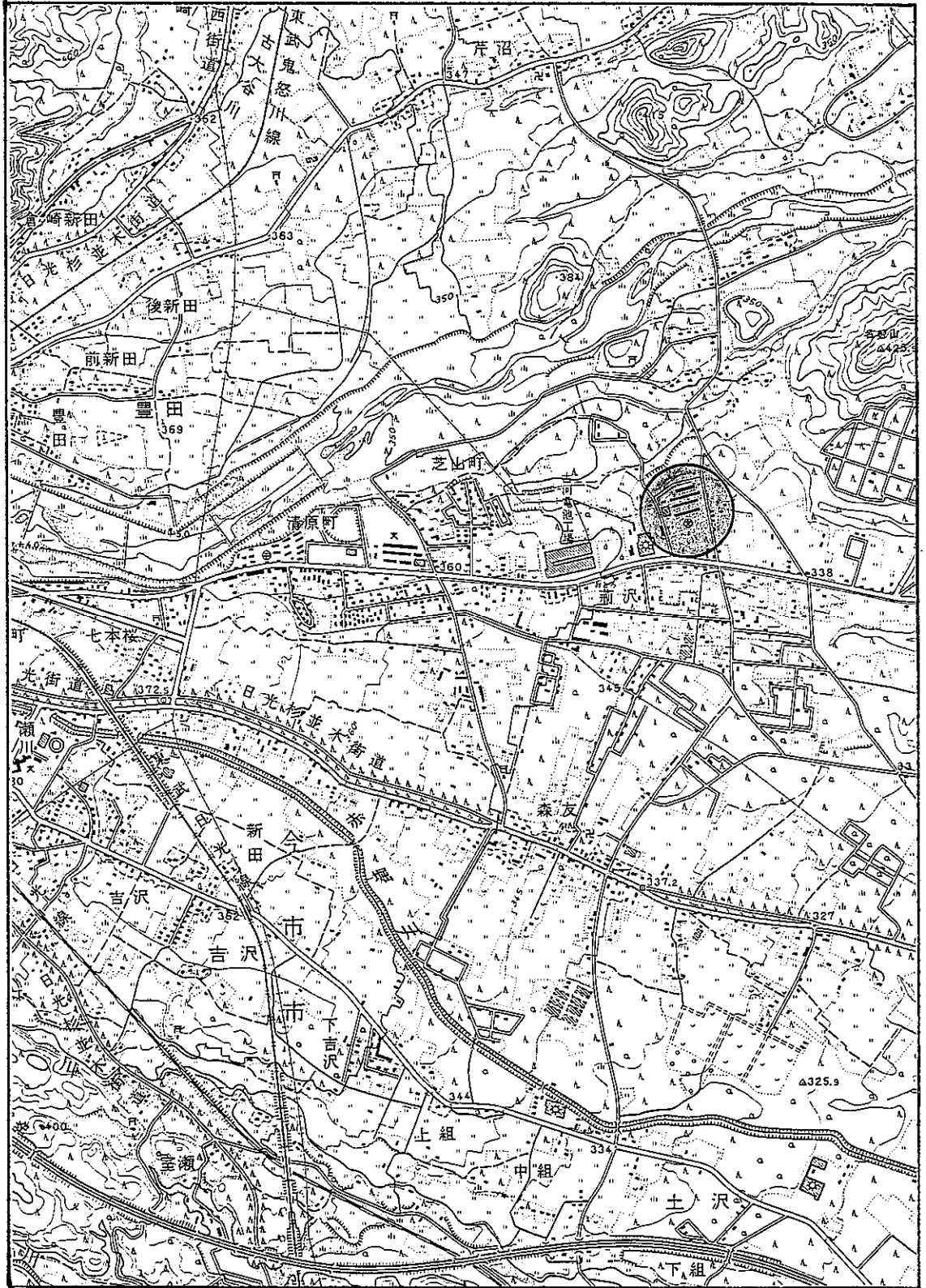
地盤の許容応力度及び基礎杭の許容支持力は、国土交通大臣の定める方法によって地盤調査を行い、その結果に基づき定めなければならないと規定されています。(建築基準法施行令第93条)

地盤構成並びに各地層の性状は、場所ごとに千差万別であることから、敷地（状況においてはその周辺も含めて）の地盤調査によって地盤構成等を的確に把握し、その結果に基づいて建物をどの地層に支持させるかを決定する必要があります。

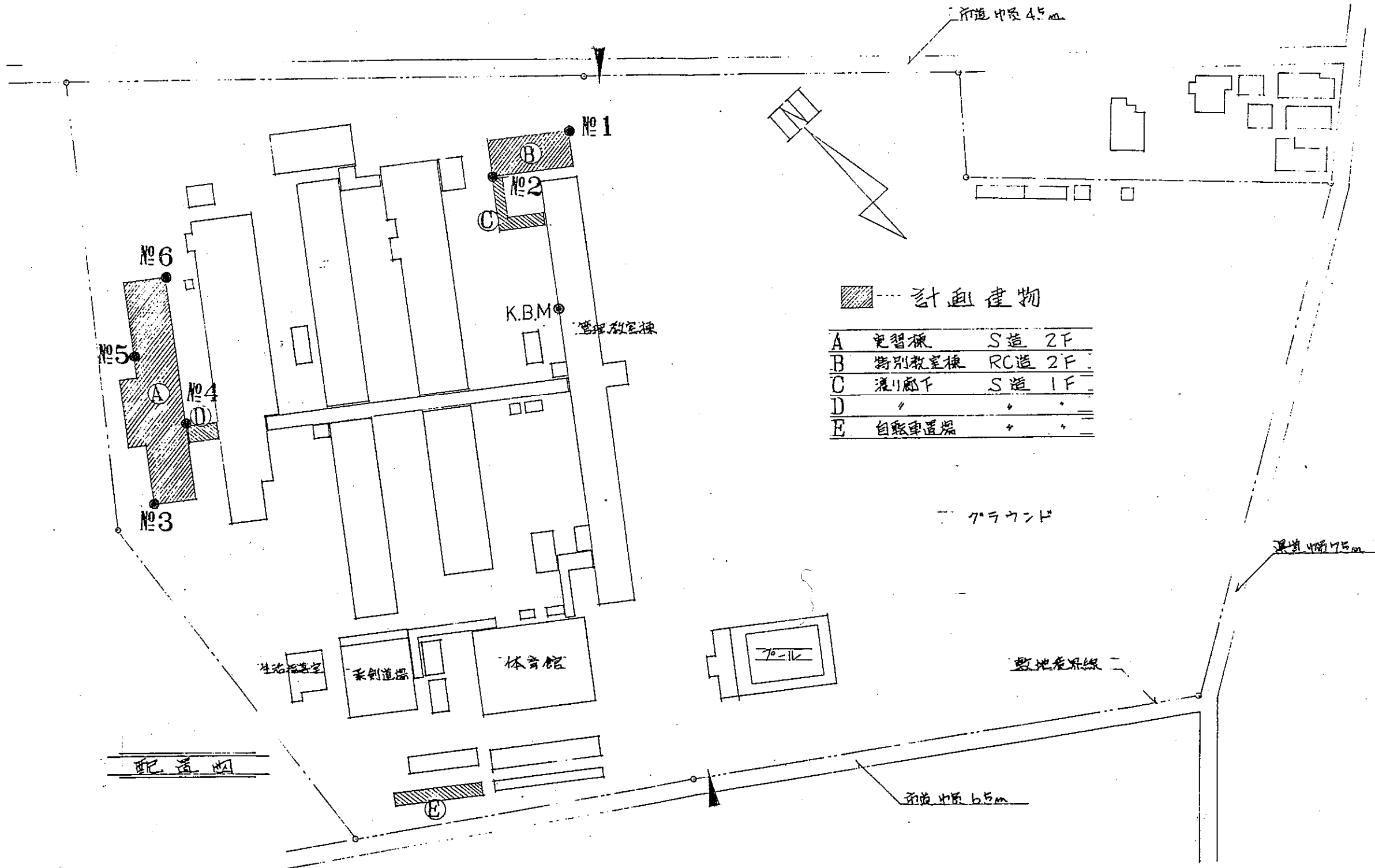
したがって、本資料は計画段階における参考資料としてご活用ください。

栃木県土木部建築課

## 2. 調査位置図



案内図 S = 1 : 25,000



■ 計画建物

A	実習棟	S造	2F
B	特別教室棟	RC造	2F
C	流し廊下	S造	1F
D	〃	〃	〃
E	自転車置場	〃	〃

今市工業高校実習棟新築工事

ボーリング番号		No. 1		備考											
調査名		今市工業高校実習棟新築工事													
調査場所		今市市前沢615													
調査年月日		昭和60年11月6日 ~ 昭和60年11月7日													
調査高さ		基準 K.B.M.(100.00m)													
ボーリング工法		99.63m ロータリー式(カノ-KR-100)現場技術者													
標高(m)	深度(m)	孔内水位(m)	層厚(m)	試料採取位置(m)	土質記号	土質名	色	記	相対密度および	貫入深度(m)	N	10cm毎の打撃回数	標準貫入試験	尺(m)	
98.33	1.30		1.30		⊗	盛土	暗褐	0~0.3m 破砕り軽石質火山灰土主体 0.3~0.6m ローム主体 0.6~1.3m 有機質火山灰土主体	やや細かい	1.15	5	2	1	2	
97.33	2.30		1.00		⊗	有機質火山灰土	黒	植物根、少量の軽石混入する。	やや細かい	1.40	33	7	13		
96.83	2.80		0.50		△△	七本杉軽石	黄褐	φ2~5%の砂粒状	中位の	2.40	5	1	2		
96.23	3.40		0.60		▲▲	今市軽石	赤褐	φ5~40%の粗粒-塊状、骨水層大。	非常に細かい	3.15	1	1	1		
					~~~~~			全体に軽石を混入するローム。	かたい	3.53	38	30			
					~~~~~			5.3~5.8m φmax 7%程度の暗灰色のスクリヤを散む。	非常に細かい	4.10	9	2	3	4	
					~~~~~			5.8~6.6m 7.0~7.4m 粘土化しておりやわらかい。		4.45	14	2	2	10	
					~~~~~	ローム	茶褐	6.8~7.0m 黄褐色の軽石混入する。		5.15	9	3	3	3	
					~~~~~			13.5~13.9m 砂混り、固結している。	かたい	6.15	2	1	1		
	9.70		10.50		~~~~~					7.47	32	24	8		
					~~~~~					8.15	9	3	3	3	
					~~~~~					8.45	9	2	3	4	
					~~~~~					9.15	9	2	3	4	
					~~~~~					9.45	5	2	1	2	
					~~~~~					10.15	5	2	1	2	
					~~~~~					10.45	7	3	7		
					~~~~~					11.15	9	2	3	4	
					~~~~~					11.45	7	2	2	3	
					~~~~~					12.15	7	1	9		
					~~~~~					12.45	8	2	2	4	
					~~~~~					13.15	8	2	2	4	
					~~~~~					13.45	11	9	9		
	13.90				~~~~~					14.15	50	41	9		
					~~~~~					14.26	71		1		
					~~~~~					15.15	50	22	28		
					~~~~~					15.34	19		9		
					~~~~~					16.15	50	23	10	17	
					~~~~~					16.45	50	16	21	13	
	17.40				~~~~~					17.15	50	16	21	13	
					~~~~~					17.40	25		5		

No. 1 孔

ボーリング番号		備考												
No. 2														
調査名		今市工業高校実習棟新築工事												
調査場所		今市市新沢615												
調査年月日		昭和60年11月7日 ~ 昭和60年11月9日												
調査高さ		基準 K.B.M (100.00m)												
ボーリング工法		99.69m 現場技術者												
ボーリング工法		ロータリー式(カリ-KR-100)												
標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	孔内水位 (m)	層厚 (m)	試料採取位置 (m)	土質記号	土質名	色	記	相対密度および	貫入深度 (m)	N	10cm毎の打撃回数	尺 (m)
0				1.50		X	盛土	黒褐	0~0.2m 碎石 礫 軽石混りの有機質 火山灰土を主体とする。	ややらかい	1.15	3	1	0
1	98.19	1.50		0.70		△△△	有機質 火山灰土	黒	植物根混入、有機物に富む。	ややらかい	1.50 2.15	35 5	13 2	1
2	97.49	2.20		0.60		△△△	粘土軽石	黄褐	φ2~5%の砂粒状	中位の	2.45	1	2	2
3	96.89	2.80		0.60		▲▲▲	今市軽石	赤褐	φ5~10%の粒状塊状	非常に 軟弱である	3.15	1	1	3
4	96.29	3.40							全体に軽石、少量の 炭化物混入する。	かたい	3.53 4.15	38 9	38 2	4
5									3.4~5.3m 黄褐赤褐色の軽石 混入する。	(中位の)	4.45	24	1	3
6									5.3~5.8m φ <sub>max</sub> 7%程度の 暗灰色のゴイリ様土	非常に ややらかい	5.45 6.15	15 2	5 1	20
7									5.8~6.7m 粘土化しており ややらかい。	かたい	6.55 7.15	41 3	25 1	16
8				10.40			ローム	茶褐	7m付近 黄褐色の軽石混る。		7.45 8.15	13 9	1 2	7
9									粘土化しており ややらかい。		8.45 9.15	2 6	3 2	4
10									7m付近 黄褐色の軽石混る。		9.45 10.15	2 9	2 3	2
11									13.1~13.3m 黄褐色の軽石多量 混入する。		10.45 11.15	12 10	3 4	3
12									13.3~13.8m 砂混り、固結 している。	非常に かたい	11.45 12.15	8	2	3
13											12.45 13.15	12 26	3 2	3
14											13.45 14.15	26 50	2 23	3
15									全体的に火山灰質の 粘土を混入する。	非常に 密な	14.15 14.36	50 21	23 1	3
16									礫は円礫、重円礫を 主体とする。		15.19 15.39	50 24	15 20	15
17				6.58			粘土混り 砂礫	褐灰	礫径はφ30~50%が 多く、φ200%程度の 玉石を混入する。	中位の	16.15 16.45	15 50	4 8	4
18									16.1~16.6m φ2~10%の礫混り の粗砂が主体となる。		17.15 17.35	20 50	8 18	42
19									19.6~20.3m 粗砂が混る。	非常に 密な	18.15 18.43	50 28	15 23	17
20											19.15 19.41	50 26	14 6	13
20	79.31	20.38									20.15 20.38	50 23	6 8	36

No. 2 孔

ボーリング番号		No. 3		備考										
調査名		今市工業高校実習棟新築工事												
調査場所		今市市荊沢615												
調査年月日		昭和60年11月2日 ~ 昭和60年11月5日												
標高		基準 K.B.M(100.00m)												
ボーリング工法		ロータリ-式(カ)-KR-100)												
		現場技術者												
標高 (m)	深度 (m)	孔内水位 (m)	層厚 (m)	試料採取位置 (m)	土質記号	土質名	色	記	相対密度および	貫入深度 (m)	N 値	10cm毎の打撃回数	標準貫入試験	尺 (m)
98.45	1.30		1.30		△	盛土	暗褐	有機質火山灰土ロ-ムを主体とする。硬凝る。	非常にやわらかい	1.15	1	1		0
97.95	1.80		0.50		△	有機質火山灰	黒	有機物に富んでいる。	非常にやわらかい	1.45	30	30		1
97.25	2.50		0.70		△△	七林軽石	黄褐	φ2~5%の砂粒状。	中位の	2.15	5	2		2
96.85	2.90		0.40		▲▲	今市軽石	赤褐	多乳質を塊状含水層に付加。	中位の	2.45	11	9		9
					〰			全体に軽石少量の炭化物混入する。		3.15	4	2		1
					〰			2.9 ~ 4.8m 軽石・火山砂を混入し砂質である。		3.48	33	16		7
					〰			4.8 ~ 5.1m φmax 7%程度の暗灰色のスロリア状。	中位の	4.15	9	2		4
					〰			5.1 ~ 5.7m 粘土化しておりやわらかい。	中位の	4.47	32	12		12
					〰					5.15	2	1		1
					〰					5.53	38	20		18
					〰					6.15	6	2		2
					〰					6.45	6	11		9
					〰					7.15	8	3		2
					〰					7.45	7	2		8
					〰					8.15	6	2		2
					〰					8.45	6	11		9
					〰					9.15	6	2		2
					〰					9.47	32	12		11
					〰					10.15	6	2		2
					〰					10.45	6	2		2
					〰					11.15	8	3		2
					〰					11.45	8	13		7
					〰					12.15	9	2		3
					〰					12.45	9	2		3
					〰					13.15	50	50		50
					〰					13.23	8	8		8
					〰					14.00	50	33		17
					〰					14.14	14	4		4
					〰					15.15	50	26		24
					〰					15.52	77	7		7
					〰					16.15	50	92		10
					〰					16.40	25	5		5
					〰					17.15	50	13		18
					〰					17.44	29	9		9
					〰					18.15	50	5		14
					〰					18.42	27	7		7

No. 3 孔



ボーリング番号		No. 5		備考									
調査名		今市工業高校実習棟新築工事											
調査場所		今市市荊沢615											
調査年月日		昭和60年11月11日 ~ 昭和60年11月12日											
標高		基準 K.B.M.(100.00m)											
ボーリング工法		ロータリー式(カ)-KR-100)		現場技術者									
試料採取位置(m)		99.72m											
標高(m)	深度(m)	孔内水位(m)	層厚(m)	土質記号	土質名	色	記	相対密度および	貫入深度(m)	N値	10cm毎の打撃回数	標準貫入試験	尺(m)
98.12	1.60		1.60	X	盛土	黒褐	0~0.2m ローム主体 0.2~1.6m 有機質山灰土主体 植物残骸混入物。	非常に やわらかい	1.15	2	1/1		0
97.52	2.20		0.60	△△△	有機質 土質	黒	植物残骸混入物。	非常に やわらかい	1.45	5	2/1		1
96.92	2.80		0.60	△△△	七本樹軽石	黄褐	φ2~5%の砂粒状	中位の	2.47	32	1/12		2
96.42	3.30		0.50	▲▲▲	分市軽石	赤褐	φ5~40%の多孔隙類土	非常に やわらかい	3.15	2	1/1		3
							全体的に軽石・砂の 炭化物混入する。	中位の (緩き)	3.45	8	2/9		4
							3.3~5.2m 軽石を混入し 砂質である。	非常に やわらかい	4.15	40	10/16/14		5
							5.2~5.7m φmax 7%程度の 暗灰色のスクリン状を	非常に やわらかい	4.45	2	0/1/1		6
							5.7~6.6m 粘土化しており やわらかい	中位の	5.15	4	1/2/1		7
							7.2m付近 8.0m付近 黄褐色の軽石が 混入する。	中位の	6.45	6	2/1/3		8
							下部は砂が十分混入 する。		7.15	8	2/3/3		9
									7.45	3	1/1/1		10
									8.15	14	9/7		11
									8.45	8	2/3/3		12
									9.15	7	2/2/3		13
									10.45	8	2/3/3		14
									11.15	8	2/3/3		15
									11.45	7	2/2/3		16
									12.15	8	2/3/3		17
									12.45	8	2/3/3		18
									13.15	8	2/3/3		19
									13.45	50	50		20
									14.15	50	50		
									14.25	70	50		
									15.15	50	50		
									15.21	6	6		
									15.00	50	50		
									15.08	8	8		
									17.15	50	50		
									17.23	8	8		

No. 5 孔



ボーリング番号		No. 6		備考										
調査名		今市工業高校実習機新築工事												
調査場所		今市市前沢615												
調査年月日		昭和60年11月9日 ~ 昭和60年11月11日												
調査高さ		99.79m												
ボーリング工法		ロータリー式(カノーKR-100)		現場技術者										
		基準		K.B.M.(100.00m)										
		U..... 不攪乱試料採取		D..... 攪乱試料採取										
標高 (m)	深度 (m)	孔内水位 (m)	層厚 (m)	試料採取位置 (m)	土質記号	土質名	色	記	相対密度および	貫入深度 (m)	N 値	10cm毎の打撃回数	標準貫入試験	尺 (m)
98.19	1.60		1.60		⊗	盛土	黒	0~0.2m 砂混りロ-A 0.2~1.6m 植物根・木片混り有機質火山灰土主体	やわらかい	1.15	3	1 1 1		0
97.49	2.30		0.70		△△△	有機質火山灰土	黒	植物根を混入する。	やわらかい	1.45	12	1 1 8		1
96.89	2.90		0.60		▲▲▲	七本柱軽石	黄褐色	φ2~5%の砂粒状	中位の	2.45	5	1 2 2		2
96.49	3.30		0.40		▲▲▲	今市軽石	赤褐色	φ5~40%の列環粒状	非常にやわらかい	3.15	1	0 1		3
								全体的に軽石・少量の炭化物を混入する。		3.55	40	16 25		4
								4.35~4.50m 褐色のスコリア塊。	やわらかい	4.15	9	1 2 6		5
								5.5~5.8m 暗灰色のスコリア塊。		4.45	3	1 1 1		6
								5.0~5.3m		5.15	14	1 1 5		7
								5.8~6.6m		6.15	2	1 1		8
								粘土化しておりやわらかい		6.50	35	2 1 14		9
								8.9~9.1m		7.15	4	1 2 1		10
								黄褐色の軽石多量混入する。		7.45	33	1 1 3		11
								13.7m~ 砂分多量混入する。		8.15	8	3 2 3		12
										8.45	7	2 3 2		13
										9.15	7	2 3 2		14
										9.45	3	1 1 1		15
										10.15	32	15 7		16
										10.47	6	2 2 2		17
										11.15	7	2 3 2		18
										11.45	7	2 3 2		19
										12.15	7	2 3 2		20
										12.45	10	3 3 4		
										13.15	10	3 3 4		
										13.45	50	50		
										14.15	9	9		
										14.24	50	50		
										15.15	50	50		
										15.23	8	8		
										16.00	50	50		
										16.05	5	5		
										17.15	50	2 1 29		
										17.35	20			

No. 6 孔